

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171000565), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホーム すぎの子の郷), 所在地 (石狩郡当別町春日町97-1), 自己評価作成日 (令和1年11月), 評価結果市町村受理日 (令和2年1月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然豊かな当別町に所在を置き、穏やかに生活しやすい環境となっております。
・地域に関しては、町内会の催し物や近隣の中学校(職場体験実習先)、大学生(看護老年学実習先)の実習場として若い世代との交流の機会を設けております。
・その他、ご家族参加型の行事も年に数回実施しており、一緒に外食したり施設で行事を通して交流を図っていただいたりすることもあります。
・入居後も、住み慣れた場所で可能な限りゆっくり、楽しく過ごしていただけるよう、職員も一緒に楽しみながら、入居者様、ご家族様含め笑顔の溢れる施設を日々目指しながら取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivvosyoCd=0171000565-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年12月19日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境・介護設備・機能: ホームはJR学園都市線沿線の閑静な地域にあり、1階デイサービス2階が当GH。利便性よい介護機能設備と共に、南に開けた明るく開放感ある居間に利用者が集い、ゆったりと過ごしている。
2) 職員の態度・姿勢: 職員は相互のコミュニケーションが良く資質向上に努め、利用者本位の支援に専念して、家族との信頼関係に留意した姿勢で臨んでいる。
3) 家族等の好感度: 家族の訪問頻度は高く、訪問時の職員の丁寧な対応や日常生活状況等への連絡・報告等に対して、高い好感を示している。
4) 運営推進会議開催状況: 会議は地域、役場の担当者、家族等の参加を得て定例に開催。運営上の課題等を提起して、参会者の意見・意向を運営に反映している。
5) 地域組織・機関の連携: 行政機関は近くにあり、地域組織、消防等の連携の下に、町ぐるみの支援体制の下に運営されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and user satisfaction levels.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも見える詰所の側面に掲示しております。	職員は法人・地域理念と共に、事業所理念「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに、家族・地域と共に」を共有して、真摯な姿勢で利用者本位な介護支援に専念している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物、実習の受け入れを積極的に行っています。	地域町内会の行事催しに利用者と共に参加したり、中学校の職場実習体験、医療大等の実習生を受け止め、交流の楽しみと同時に専門性育成の役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講演の講師のお手伝いをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、福祉課、町内会、ご家族の参加で2ヶ月に一度(偶数月の第三木曜日)に実施しています。	会議は定例に開催しており、行政、地域包括支援センター、家族等の参加の下に、日常のホーム運営上の実情を説明している。また、参加者の意見等を運営に反映し、議事録を家族に送付して理解を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の研修会、地域ケア会議などに参加して連携体制も取れやすくしています。	運営推進会議に行政の担当機関の参加を得ると共に、運営状況報告等での情報交換で課題を運営に反映している。また、研修やケア会議で関連事業所等との連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のワークで職員への確認、周知を行ったり勉強会で理解を深めています。	身体拘束委員会は定例に開催して職員相互の周知を図るとともに、関連する虐待や人権を損なうことのないよう介護資質の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のワーク、勉強会、研修などを通じて職員へ確認、周知しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を活用されている方がいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に口頭及び文章での説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからは日々の生活の中での会話などから要望を聞いています。ご家族からは面会時、家族会などを通じて要望を聞いたりしています。	家族の訪問頻度は高く、職員は訪問時の面談や要望・意見等を傾聴して、個々の介護支援に活かすと共に、運営推進会議等にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のワーク、年2回の人事考課などで職員の意見を聞いています。	月例の職員会議や、年2回の人事考課での相互評価等、職員の業務上の意見・意向を活かした職場としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有資格者には手当てが付き職員への還元を行っています。また有給取得、リフレッシュ休暇、法人内での旅行や食事会などの企画もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加出来るような体制が整っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流、ネットワーク作りを行っています。法人内の事業所、町内の事業所との交流もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に心配なことなどを本人、家族、ケアマネなどから事前情報を確認し安心して過ごせるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談、契約の際に家族の思い、気になる事を確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の声を聞き思いに添ったケアの提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を引き出しながら一緒に行うことで関係性を構築しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加型の行事を企画し一緒に参加出来る機会を設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係性が継続出来るように面会などが行えるように支援しています。	入所者の地域性も濃く、また家族の訪問頻度も高いことから、家族の協力等を活かした利用者との馴染みの関係を深めるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんの性格、相性を把握しながら一緒に楽しめる場を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も別の他施設、病院に移られた後も面会、お見舞いなどを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話から思いや感じていることを把握するように心掛けています。	利用者の思いや意向把握は、入所以来のアセスメント記録やその後の変化事項等を記録し、かつ日常の対応を通して行動や表現から把握に努めて、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族の声を聞き思いに添ったケアの提供を行うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録などを通して日々の変化などを共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望などを確認し、職員からの情報を集約し毎月のワークで話し合いその方に合ったプランを作成しています。	日頃の家族との面談による情報・意向を受け止め、職員各職位の相互の共通理解や協議での課題を計画書作成に活かして、家族・利用者の理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄状況などを記録し職員間で共有し個々のプランに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の想いに添えるよう柔軟な対応を行えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア交流、地域の学生の職場体験を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院へ定期受診を行っている。	利用者固有のかかりつけ医を尊重して、家族の協力も得てホームが受診同行等、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化を伝えながら、特変時は判断を仰ぎながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の同意のもと、ムンテラ、検査結果などの際には同席させていただき本人の状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行える体制が整っておらず実施が難しい状況です。	看取りは行っていないが、利用者の重度化等の際には家族や協力医療機関と協議を重ねて、最適な支援が出来るよう図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急などの研修を消防に依頼して実施しています。緊急時のマニュアルも作成しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回色々な想定での訓練を実施しています。非常食の備蓄もあります。	年4回の想定災害訓練(ベランダへの一時避難など)を関係機関の協力も得て実施している。運営推進会議にも諮り、内外の連絡体制などの強化と確認を図っている。また備蓄等にも配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーに配慮し自尊心を尊重した関りをしています。	最も基本的な介護姿勢として、利用者の尊厳と人権・個性への対応に努めている。この日常での配慮が利用者とのコミュニケーションがよく取れているものと思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような場面を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の好きな事に適切に対応出来るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容室があるので本人のペースでカットなど行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が旬の食べたい物を食べたい時に食べられるような工夫をしています。	食事は利用者の最も高い関心事と捉え、季節感のある旬のものを味合えるよう調理に工夫し、また、「全国食べ歩き」などの食事企画も検討中等、利用者と楽しみある食事の機会を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況や定期的な体重測定を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩の2回の口腔ケアの他、年に一度、訪問歯科の定期検診を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を排泄板で把握し、トイレ誘導に役立てています。	排泄の自立を基本として支援している。個々の心身の状況等と共に排泄パターンなどを記録し、職員が共有して適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況によっては乳製品を提供するなどの工夫を行っています。必要に応じて下剤の調整もを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望や体調に合わせて入浴を提供しています。	入浴は個々の心身の状況等を考慮するとともに、週2～3回、主に午前中の利用が多い。入浴が苦手な利用者には「予約している」などとユーモアで促すなど、気持ち良い時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え夜間良眠出来るように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の申し送りや記録への記入を行い職員間で情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々でも、全体でも楽しんでもらえるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援し	外出の希望をされる方は少ないですが、外出行事、散歩、受診以外でも外出できる機会を設けています。	心身の変化により車椅子状態の利用者も増えているが、ベランダでの季節を感じる外気浴や、外出行事や受診の機会を活用して、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、自己管理されている方はいらっしゃいません。支払いの場面で可能であれば支払いをして頂く機会があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの大きな窓から光が入り明るいです。室内装飾は季節に合わせて変えています。	居間は南に向けて開かれ、利用者が集い陽光や四季の変化を感じられ、居心地良い温度や湿度の管理、介護設備機能の利便性やTV等の設備も整っている。また、季節に応じた飾りつけなどに工夫があり、日々の生活を楽しめる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みに合わせた飾りなどがされています。	個々の居室は家族の協力も得て、利用者の馴染みの家具調度品などを備え、思い出深い写真や飾りつけなどで居心地よい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺があり、床はフローリングで段差のない環境です。		